保育環境論資料

発達の特徴・発達の姿と環境構成・保育者の援助

0歳から6歳まで

田中敏明

発達に合わせた環境構成と援助の事例を各分野ごとに1～３例紹介しています

　　　　　　　　　　　活用上の注意

☆発達には個人差があります。

☆発達の個人差に配慮した環境を構成してください。

・（　）は月齢で、その月例までに出てくる姿を示しています。

・ここに示した月例はあくまでも目安となる年齢です。

・多くの子どもはもう少し早い時期にその姿が出てきます。

・（　）の月例より遅くても、多くの場合は正常の範囲内です。

・年齢が高くなるほど発達の幅が大きくなります。

〔資料出所〕

　　　　　　　「津守式重要児精神発達質問紙（1から12か月まで）（1～3歳まで）（3～7歳まで）」大日本図書

　　　　　　　「KIDS乳幼児発達スケール（0歳1ヶ月～6歳11ヶ月）」三宅和夫、発達科学教育研究センター

　　　　　　　「ポーテージ乳幼児教育プログラム0～6歳・発達チェックと指導ガイド」S，ブルーマ他，主婦の友社

　　　　　　　「幼稚園・保育所指導計画の作成と実践のためのねらいと内容集」田中敏明，北大路書房

　「子どもの園生活と成長の姿―3歳から6歳まで－」田中敏明，ミネルヴァ書房

乳児期（0歳～1歳未満）

乳児期（0歳～1歳未満）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 発達の特徴 | | | |
| ・心身の様々な機能が未熟であり、未分化な状態にある。  ・運動機能が急速に発達し、早い子は歩けるようになる。  ・感覚や運動を通して外界を認知する。  ・見えない世界がることが分かるようになり、物を落としたり引き出しを開けたりなど活発に探索し始める。  ・表情、体の動き、泣く、喃語などで欲求を表現する。  ・喃語から言葉へ変化し、言葉によるコミュニケーションが芽生える。  ・暖かく応答的なかかわりの中で人に対する基本的な信頼感が育まれ、親や保育者との愛着関係が育つ。  ・食事を中心に、生活習慣を身に付け自立するための準備ができる。 | | | |
| 環境構成・援助の要点 | | | |
| ・安全で快適、衛生的、健康的な環境を作る。  ・動きが安全に行われる環境を整え、動きを一緒に喜んだり、励ましたり、促したりする。  ・動きがある、色がある、音がするなどの遊具を用意し、誤嚥などの安全に留意して子どもとかかわる。  ・表情、体の動き、泣く、喃語などでの欲求をうけとめ、即座に欲求を満たす。  ・子どもの発声に表情や言葉で応答し、言葉の発達を促す。  ・子どもとのスキンシップを通して信頼関係を醸成する。  ・授乳や食事を通して自立のための基礎を作る。 | | | |
|  | 発達の姿  （　　）数字は月齢 | 環境構成・活動・保育者の援助  （例として一部をとりあげています） | |
| 運  動  運  動 | ①腹ばいにすると頭を持ち上げる（3）  ②仰向けから横向きへの寝返り（4）  ③支えると椅子に座る（5）  ④支えなしで座る（6）  ⑤座って、おもちゃを両手に持って遊ぶ（7）  ⑥少しの支えで立つ（8）  ⑦つかまり立ちする（9）  ⑧つかまり立ちで高いところのものを取る（10）  ⑨はいはいする、はって布団などを乗り越える（10）  ⑩つたい歩きをする（11）  ⑪手押し車、歩行器などを押して歩く（11）  ⑫発達の早い子は歩く（12） | | ②③④⑥⑦⑨⑩⑪⑫  これらの行動の最初は、しようとする様子をしばらく見守り、手助けする。できたときは、「できたねー」と嬉しい気持ちを込めて言葉かけし、一緒に喜ぶ。  ⑨（環）  はいはいのできる安全な空間を作る。  ・床に飲み込む危険のあるものを置かない（39mm×51mmの誤嚥チェッカーより小さいものは危険）。  ・角や柱には必要ならばクッションテープ等の保護材をつける。  はいはいする部屋から抜け出せないようにする。  　　　はいはいのお手本を見せる。  はいはいが上手になると、途中に布団などを置く。  （援）  少し移動すれば手の届く場所（30㎝程度前方）から声をかけたり好きなのを置いて、前方への移動を促す。  保育者が隣で一緒にはいはいする。  はいはいを「すごいね」とほめる。 |
| 認知  ・  探索  ・操作  認知  ・  探索  ・操作 | ①触れたものを握る（０）  ②音のしたほうに首を回す　見たものを目で追う（1～2）  ③ガラガラを振ったり眺めたりする（4）  ④体の側の玩具に手を伸ばす（4）  ⑤玩具を差し出すと手を出してつかむ（5）  ⑥ものを落として、落ちた場所をのぞく（6）  ⑦見えていたものが見えなくなってもものがあることが分かり、ものを何度も繰り返し落とし取ってほしいしぐさを見せる（8）  ⑧引き出しを開けていろいろなものを引き出す（9）  ⑨おもちゃの車、電車などを手で走らせて遊ぶ（11）  ⑩鉛筆でめちゃくちゃ描きをする（12） | | ④（援）  　動かして音を出しながらガラガラを近づける。  　最初のうち、うまくつかめないときはしっかりつかませる。  　つかめたら、「できたね」と声掛けをし、一緒に喜ぶ。  ⑤（援）  ５か月が過ぎるころからガラガラを近づけながら、手を伸ばしてきたとき紙などで最初は一部を、やがて全体を隠し、しばらくして見せる。  ⑦（環）  　見える、隠れる遊び（保育者が顔を布で隠したり出したりする、箱にガラガラを入れて振る、ものを布で覆う、  （援）  　取ってほしいしぐさをする間は何度でも取ってあげる。  　おとしたら「なくなった｝、手渡しながら「あったね」と言葉かけする。  　⑧（環）  　はいはいして手の届く場所に、引き出しやすい引き出しを用意する。  　この時期は、箱の中の見えないところからひもを引いて物を取り出す遊びを行う。  ⑨（環）  おもちゃの車、ﾃﾞﾝｼｬ  （援）  　「ブーブー」と言いながら一緒に遊ぶ。 |
| 言  葉  言  葉 | ①元気な声で泣く（0）  ②いろいろな泣き声を出す（2）  ③「アッアッ」「うー」といった母音だけを発する（クーイング）。  ④人の声がするほうに首を回す、目が動く（3）  ⑤ほかの音と母親の声を聴き分ける（泣き止むなど）（4）  ⑥声を出して笑う（4）  ⑦「ダァダァ」「バブバブ」と、2文字以上の言葉（喃語）を発する（5）  ⑧親の声が聞こえるとそれにつられて声を出す（6）  ⑨子どもの出した声を親が真似ると喜ぶ（6）  ⑩要求があるとき、声を出して親の注意を引く（7）  ⑪発声だけではなく、身振りも加えて意思を伝えようとする（10）  ⑫話している親の口元を見つめる（10）  ⑬「ちょうだい」というと手に持っているものをくれる（11）  ⑭意味のある言葉を話し始める(11)  ⑮「マンマ」などと言って食べ物の催促する（11）  ⑯「ブーブー」はどことたずねると、そちらを見る（12）  ⑰大人の音を真似てそのままいう（12） | | ⑦（援）  発した喃語で応答する  1対1で“赤ちゃん言葉”で話しかける  ⑫（援）  　口元が見やすいように、子どもの目の高さに口元を置いて話しかける。  　この時は、唇音（M、P、Bの音）を意識して出す。  　「そうね、マンマね」と反応する。  ⑭（援）  　赤ちゃんが聞き取りやすいように、言葉はゆっくり・はっきりと発音する。  　身振りを使ったり、表情豊かに話しかけるなど、その子にとってわかりやすいように工夫する。  　動詞や形容詞などと組み合わせて、２〜３語の短い文章で語りかける（マンマ　たべる？など）。 |
| 対人関係 | ①抱き上げると泣き止む（1）  ②人の顔をじっと見る（1）  ③人の声がするほうを向く（2）  ④母親の顔を見ると安心する（3）  ⑤あやされると声を出して笑う（3）  ⑥人を見ると笑いかける（3）  ⑦いないいないバーを喜ぶ（4）  ⑧親しみの顔と怒りの顔がわかる（6）  ⑨人見知りする（7～8）  ⑩親がいなくなろうとすると後追いをする（9）  ⑪親の話しかけに答えようとする（11）  ⑫ほめられると同じことを繰り返す（12） | | ①～⑫（援）  この時期全体で、子どもの気持ちに共感し、抱っこ、ほおずりなどのスキンシップに努め、できるだけ言葉かけをし、喃語に応答する。  オムツの交換時には、「濡れて気持ち悪いね」、「きれいになったね」、「きもちいいね」の言葉をかける。 |
| 健康  ・生活習慣 | ①ミルクなどを吸い、飲み込む（0）  ②離乳食を食べる（5）  ③食べ物を自分でつかみ、食べる（9）  ④仰向けで、ミルクビンを自分で持って飲む（10）  ⑤コップなどを両手でつかんで口に持っていく（11）  ⑥「マンマ」などと言って空腹を知らせる（12） | | ①～⑥　（援）  　泣き声や表情、発声から、空腹、痛み、不快などの要求や状態を感じ取り、即座に応える。  ②（援）  　開始の時期を見極める：一人一人に合った適切な時期がある。  　・首がすわっていて、支えがあれば一人で座れる  　・哺乳反射が弱くなっている  　・食べ物に興味を持ち始める  　・よだれの量が増え、歯が生え始める  　・授乳リズムが整ってきている  ⑥（援）  言葉⑭参照 |

幼児前期（1歳～3歳未満）

幼児前期（1歳～3歳未満）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 発達の特徴 | | |
| ・走る、飛ぶ、登るなどの基本的な全身運動機能が発達し、運動遊具で遊べるようになる。  ・指先の運動機能が次第に発達し、指先を使った遊びや描くことが活発になる。  ・表象が可能になり、物を言葉で表したり、空き箱を車に見立てる象徴機能が発達し、ごっこ遊びなどを盛んに行う。  ・語彙数が急速に増加し、助詞を含めた多語文を話すようになり、文法規則の基礎が獲得される。  ・絵本への興味が高まる。  ・友達への関心が高まり、友達とのかかわりが始まる。  ・自我が芽生え、したいこととしたくないことが自覚されて、自分でしたいという気持ちが高まることから反抗期が始まる。  ・はしを使う、服を脱ぐなど、生活の自立の基礎ができ、自分でしたいという思いが高まる。 | | |
| 環境構成・援助の要点 | | |
| ・安全で快適、衛生的、健康的な環境を作る。  ・全身運動に適した遊具を用意し、戸外遊びを促す。運動の際には、一人一人の発達や個性を把握し、それに応じた援助と安全への配慮を行う。  ・見立て遊びの場と、子どもの遊びを促す遊具を用意する。  ・年齢にあった絵本を用意する。  ・友達遊びの場と必要な遊具を用意し、年齢に合った遊びを紹介する。  ・子どもとの個別の会話に努める。  ・子どもが着脱しやすい衣服、使用しやすい食器、トイレなどの環境を整え、自立を促す。 | | |
|  | 発達の姿  （　　）数字は月齢 | 環境構成・活動・保育者の援助  （例として一部をとりあげています） |
| 運  動 | ①だいぶ早くちょこちょこ歩く（15）  ②物を持って立ち上がる（15）  ③階段をはって上る（18）  ④走る（18）  ⑤ボールを投げられる（18）  ⑥テーブル、いすなど高いところから飛びおりる（21）  ⑦手すりをもって階段を上り下りする（21）  ⑧三輪車などを押して歩く（21）  ⑨まりを受け取ったり投げたりする（21）  ⑩両足でぴょんぴょん跳ぶ（24）  ⑪鉄棒にぶら下がる（24）  ⑫すべり台に上り、すべる（30）  ⑬ブランコに立って乗れる（36）  ⑭三輪車に乗ってこぐ（36）  ⑮転がっているボールをつかまえる（36）  ⑯すべり台を仰向けにすべる（36） | （環）  年齢に適した遊具をそろえる（動き、高さ、大きさ、硬さなど）。  （援）  運動遊びをしているときは子どもから目を離さず、安全に気を付ける。  できるだけ子どもと一緒にその運動に取り組む。  できたときは思いきりほめ、一緒に喜ぶ。 |
| 認知  ・  探索  ・  操作  認知  ・  探索  ・  操作  認知  ・  探索  ・  操作 | ①高いところから物を落とすことを好む（15）  ②水いたずらを好む（15）  ③小さなものを、コップや瓶に入れたり出したりして遊ぶ（15）  ④積み木を重ねる（18）  ⑤おもちゃをひもで引っ張って歩く（18）  ⑥なんでも自動車に見立てて押して歩く（18）  ⑦砂を容器に入れたり出したりして遊ぶ（18）  ⑧コップからコップに水を移す（18）  ⑨母の掃除や化粧をまねる（18）  ⑩鉛筆などでぐるぐる丸を書く（21）  ⑪いろいろなものを紙や布に包んで遊ぶ（21）  ⑫人形やおもちゃの動物をおぶったり抱いたりする（21）  ⑬いろいろなものをいっぱい並べてままごと遊びや乗り物ごっこをする（24）  ⑭ハサミで紙、布を切る（30）  ⑮いろいろなものの出す音に興味を持つ（30）  ⑯遊びに必要な道具を自分で探し出して遊ぶ（30）  ⑰顔を書いて目、口をつける（36）  ⑱のりで張り付ける（36）  ⑲木の実やドングリを集めて喜ぶ（36）  ⑳積み木でままごとに必要なもの、車庫や線路を作る（36）  ㉑不思議に思ったこと、興味を持ったことを先生に伝えたり、尋ねたりする（36）  ㉒おぼえた歌をみんなで一緒に歌ったり、聞いたりすることを楽しむ（36）  ㉓いろいろな色を使って塗ろうとする（36） | ⑬（環）  　最初のうちはままごとセットも効果的であるが、子どもが周囲の環境から適切な材料を見つけ出すように仕向ける。。  　土（粘土質が良い）や水、シャベル、バケツ、茶わん、木片などを見つけやすい場所に置く。  　（援）  　時々は保育者も参加する。  　一部の子どもがなりたい役を独占しているときは、そのことに気付かせ、どうしたら公平になるか一緒に考える。  ⑭（環）  子どもの利き手に配慮して、左利き用のはさみを用意する。  　（援）  　紙などを切るとき、右利きと左利きでは切る方向が違うので、子どもが切りやすいように言葉かけする。      ㉑（環）  子どもの疑問の対象を知り、子どもが疑問を持つ環境を作る、体験をさせる。  ・象の華はどうして長い？動物も泣いたり笑ったりする？昆虫は雨の日はどこに行ってる？ダンゴムシはどうして丸くなる？⇒動物図鑑  ・どうして雲は白いの？どうしてコップの外側に水が付くの？⇒実験  （援）  その疑問を持ったことをほめる。  正確に答えるより、子どもが満足する答えを返す。  知識だけで返すのではなく、疑問をきっかけに会話を発展させる。  時々はすぐ答えずに子どもに考えさせる。  子どもが理解できる実験をしてみる。  子どもの質問を想定し、あらかじめ答えを用意しておく。  ㉒（環）  手遊び歌を用意する（はじまるよ、つくしんぼ、キャベツのなかから、どんぐりころころ、大きな栗の木の下でなど）  （援）  保育者も一緒に楽しそうにする。  ゆっくりしたテンポで、ふりは大きくする。  子どもの好きなようにやらせてみる。  声や速度を変えてみる。 |
| 言  葉  言  葉 | ①2語以上の言葉を使い分ける（15）  ②絵本を見て、知っているものの名前を言う、指さす（15）  ③目、耳、口などを指さす（15）  ④絵本を読むことを求める（18）  ⑤名前を呼ばれると返事をする（18）  ⑥いろいろなものの名前を「これなあに」と次々と尋ねる（18）  ⑦簡単な質問に答える（21）  ⑧代名詞を使う（ここ、あれなど）（21）  ⑨大きい小さい、多い少ないがわかる（21）  ⑩簡単な文を言う（3語文）（24）  ⑪赤、青など色の名前がわかる（24）  ⑫同年齢の子どもと二人で会話ができる（24）  ⑬ストーリーの無い「ものの本」に興味を持ち、自分で見る（30）  ⑭姓と名が言える（30）  ⑮朝の挨拶、帰りの挨拶が言える（30）  ⑯靴箱や道具箱の印がわかる（30）  ⑰僕、私が言える（36）  ⑱名前を呼ばれると返事をする（36）  ⑲気に入った絵本ができ、何度も自分で見たり、先生に読んでもらおうとする（36） | ②（環）  　身近なものが描かれた「ものの本」を用意する。  　（援）  　指さして「これなあに」とたずね、やり取りする。  ④（環）  　身の回りのもの、顔の表情を描いたもの、子どもとやり取りができるもの。  　・くだもの、あっぷっぷ、いいおかお、かおかおどんなかお、だるまさん、ぴょーん  　（援）  　絵と子どもをむき合わせ、絵本を子どもの目の高さに置く。  　話しかけながらゆっくりページをめくる  　いきなりものの名前を言ったりせず、子どもの反応を待つ  ⑥認知・探索・操作㉑参照  ⑪（援）  　会話の中で色に注意を向けさせる。  　色＋もので語りかける（「赤いブロック」、「白い車」、「ピンクのうさぎ」  「信号、青になったね。」、「赤になっちゃったね」など。  ⑲（環）  　2歳後半～3歳児向けの、日常の生活を描いたものを中心にした、短いストーリーが繰り返される、簡単なストーリーの絵本を用意する。  　・はらぺこあおむし、どこどこももちゃん、など  　（援）  繰り返し読み聞かせをする。  物や人の名前が出てくるところは、指さしながら読む。 |
| 対  人  関  係  対  人  関  係 | ①幼い子供に近づいて服などに触る（15）  ②子どもの中で一人で機嫌よく遊ぶ（15）  ③子ども同士でおもちゃを取り合う（15）  ④困ったとき助けを求める（18）  ⑤子どもの後をくっついて歩く（21）  ⑥友達と手をつなぐ（21）  ⑦子ども同士で追いかけっこをする（24）  ⑧友達の名前が言えるようになる（24）  ⑨ほしいものがあっても、言い聞かせれば我慢して待つ（24）  ⑩年下の子どもの世話を焼きたがる（30）  ⑪友達とけんかすると言いつけに来る（30）  ⑫「～しよう」というと「いや」が多くなる（30）  ⑬ままごとで、父、母、赤ちゃん、客などの役をそのつもりになって行う（36）  ⑭お店屋さんごっこでいろいろな店を作り、売り買いする。（36）  ⑮友達に「～しよう」と誘いかける（36）  ⑯なにかしてもらったら「ありがとう」とお礼が言える（36） | ⑫（援）  　　「いやだ」、「自分でしたい」という気持ちを受け入れる。  子どもが自分でできるような環境を整える。  できるだけしたいようにやらせてみて、どうすればよいか自分で気づかせる。  楽しみながら動けるような声掛けをする。  ⑭（環）  トイレットペーパーやサランラップの芯、ティッシュペーパーの箱、ガムテープ、紙コップ、割り箸、段ボール、色紙、ビニール袋、牛乳パック、毛糸  マジック、ボンドを使った手作りおもちゃを基本とする。 |
| 健康  ・生活習慣 | ①スプーンを使って自分で食べようとする（15）  ②キャラメルなどの紙をむいて食べる（15）  ③口元を自分で拭く（18）  ④おしっこをした後で知らせる（18）  ⑤こぼすと拭こうとする（21）  ⑥食卓の自分のものと他の人の物とを区別できる（21）  ⑦家族の茶碗、はしがわかり、並べる（21）  ⑧風呂で、自分の体にせっけんをつけて洗う（21）  ⑨帽子を一人でかぶれる（21）  ⑩靴を自分で脱ぐ（21）  ⑪物をかたづけるのを手伝う（21）  ⑫大便を教える（24）  ⑬靴を履く（24）  ⑭食事がすむと「ごちそうさま」という（30）  ⑮おしっこの前に教える（30）  ⑯衣服の着脱を自分でしたがる（30）  ⑰歯を磨く（36）  ⑱夜のおむつがいらなくなる（36）  ⑲おもらしをしなくなる（36）  ⑳はしを使って食べる（36）  ㉑紐をほどいて服を脱ぐ（36）  ㉒カバンなどを片付けてから活動を始める（36） | 全体を通して  　（環）  　子どもが自分でできる環境を作る。  　・着脱しやすい大き目の服、靴  　・適当な高さの洗面所  　・使いやすい食器  　・片付けしやすい場所、入れ物  　（援）  焦らずに根気よく待つ。  できなくてもできるだけ待って、どうしてもできなければ援助する。  できたときはしっかりほめ、できたことを一緒に喜ぶ。 |

幼児後期（3歳～6歳）

幼児後期（３歳～６歳）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 発達の特徴 | | |
| 発達の特徴 | ・基本的な運動や動作が一通りできるようになる。  ・葛藤やけんかを経験する中で、次第に相手の気持ちを考え、思いやり行動が見られるようになる。  ・好奇心が高まり、行動範囲も広がって、様々なものや事象に積極的にかかわり、考えたり、試したり、発見したりする。  ・見た目に影響された直感的な判断を行い、自己中心的な思考、アニミズム思考が特徴である。  ・仲間意識、クラス意識が育ち、共通の目的のもとに役割を分担して協働するようになる。  ・一つの話題について長く話すことができるようになり、話し合いで解決できるようになる。  ・文字への興味が広がる。  ・基本的な生活習慣がほぼ身につく。 | |
| 環境構成・援助の要点 | | |
| ・安全で快適、衛生的、健康的な環境を作る。  ・全身運動に適した遊具を用意し、戸外遊びを促す。  ・疑問、発見、感動を促すもの、事象、状況との出会いの場を整える。  ・保存概念の欠如、思考の自己中心性、アニミズムなどの特性に対応した教具や環境を用意・構成し、認知的不均衡が生じる状況を作る。  ・年齢にあった絵本を用意する。  ・協力、助け合い、思いやり行動が生じる状況を作る。  ・身の回りの様々な問題や課題、トラブルを、自分たちで解決するように促す。  ・子どもの質問を予想し、答えを用意しておく。 | | |
|  | 発達の姿  （　　）数字は月齢 | 環境構成・活動・保育者の援助  （例として一部をとりあげています） |
| 運  動  運  動 | ①目的地まで走る（42）  ②3回程度ドリブルができる（42）  ③スキップができる（54）  ④転がしドッジボールを楽しむ（54）  ⑤リズムに合わせて歩く、走る、止まるなどの動作を楽しむ（54）  ⑥リズムに合わせて正確に動こうとする（54）  ⑦強弱の動きを取り入れた踊りを楽しむ（54）  ⑧音に合わせてスキップする（54）  ⑨ブランコを自分でこぐ（60）  ⑩ジャングルジムの上まで登る（60）  ⑪風の音、雨の音を体の動きで表現する（60）  ⑫曲の速度と強弱を感じ取り、思いついた即興的な動きを楽しむ（60）  ⑬一輪車、竹馬、平均台の上でのじゃんけんなどの遊びを楽しむ（66）  ⑭サッカー遊びができる（66）  ⑮ドッジボールができる（66）  ⑯子どもだけでリレーをする（72）  ⑰縄跳びができる（72）  ⑱長い縄で、何人かで縄跳びをする（72）  ⑲補助輪なしの自転車に乗る（72）  ⑳自分たちで簡単な振り付けを考えて、音楽に合わせて体を動かす（72） | ①～⑳運動遊びの環境と援助  （環）  自分から進んで何度も繰り返すことにおもしろさを感じることができるような環境の構成。  幼児が自発的に体を動かしたくなる環境（天井から様々な高さのリボンや紙テープをつるす、登り棒を20㎝間隔で色付けするなど）。  一人一人の発達に対応した遊具を並行して用意する（ブランコ、鉄棒竹馬の高さ、跳び箱の段数など）。  遊具の安全性を絶えず確認する。  （援）  達成可能な具体的な目標を持たせる。  できたときはほめ、共に喜ぶ。  易しい動きから難しい動きへ、一つの動きから類似した動きに発展させる。  自分たちでルールや決まりを作る。 |
| 認知  ・  探索  ・  操作  認知  ・  探索  ・  操作  認知  ・  探索  ・  操作  認知  ・  探索  ・  操作  認知  ・  探索  ・  操作 | ①草花や小さな虫などを集めることを楽しむ（42）  ②飛ぶ、水の中にいるなど、生き物の違いに関心を持つ（42）  ③自分の栽培している生き物に興味を持ち、餌をやったりする（42）  ④生活と結びつけて、天候に関心を持つ（42）  ⑤人などを描く（42）  ⑥植物や砂、土などごちそうなどに見立てて遊ぶ（42）+  ⑦クレヨンで色を使い分けて描く（42）  ⑧木片に金槌で釘を打ち付けて遊ぶ（42）  ⑨ままごと遊びで家庭的な遊びをする（42）  ⑩簡単な折り紙を楽しむ（42）  ⑪七夕の行事に興味を持つ（42）  ⑫お正月の遊びに興味を持つ（42）  ⑬いろいろな楽器の持つ音の違いに興味を持つ（42）  ⑭虫の動きや鳴き声を身振りや音で表現する（42）  ⑮何を描こう、何を作ろうという目的をもって描いたり作ったりする（42）  ⑯芽が出る、大きくなるなど植物の成長や変化に興味を持つ（48）  ⑰木の葉や木の実などの形や大きさに興味を持つ（48）  ⑱虫集めを喜ぶ（48）  ⑲冬は生き物が少なくなることに気付き、関心を持つ（48）  ⑳高い低い、広い狭い、早い遅い、ふとい細い、思い軽い、きれい汚い、右左がわかる（48）  ㉑いろいろなものの出す音の違いに興味を持つ（48）  ㉒まだ使えるものを捨てずに、大事に使おうとする（48）  ㉓砂場でトンネルを作る（48）  ㉔ハサミで簡単な形を切る（48）  ㉕友達同士で会話しながら何か作る（48）  ㉖砂場で、シャベル、バケツ、茶わん、木片、ホース、水などを使うと遊びが面白くなることに気付く（48）  ㉗色水遊びで、混ぜると、元の色とは違う色ができることに興味を持ち、いろいろな色を作ろうとする（48）  ㉘落ち葉や木の実を集めて飾ったり、製作に活かす（48）  ㉙くっつけるとき、のり、セロテープ、ホッチキスを適切に使う（48）  ㉚1から10まで数えることができる（48）  ㉛身長の順に並ぶことができる（48）  ㉜みんなで一緒に一つの絵を描こうとする（48）  ㉝簡単な歌を、音程を意識して歌う（48）  ㉞粘土、木片、サツマイモなどを使っていろいろな形を作ろうとする（48）  ㉟どのお店でどんなものを売っているかわかる（48）  ㊱地域のお祭りに参加し、地域の人とのふれあいを楽しむ（48）  ㊲日本とは違う国があることが分かる（48）  ㊳絵本や物語、好きな動物になりきって遊ぶ（48）  ㊴秋になって木が紅葉し、いろいろな色になることに興味を持つ（54）  ㊵植物も生きていることが分かる（54）  ㊶冬は服装が厚着になる、暖房が入るなど冬の生活に気付く（54）  ㊷駅、郵便局、消防署、警察署などの施設とそれぞれの役割に興味を持つ（54）  ㊸お正月、大晦日、節分などの行事に興味を持つ（54）  ㊹経験したこと、思ったことを絵に描く（54）  ㊺昨日の続きの遊びをする（54）  ㊻わからない生き物を昆虫図鑑で調べようとする（54）  ㊼人の数を数えて物を配ることができる（54）  ㊽曲の早い・遅いに興味を持つ（54）  ㊾思いつくままに歌を作って、口ずさむ（54）  ㊿経験したことを絵に描くことを楽しむ（54）  （51）物の持つ色と同じ色を使って塗ろうとする（54）  （52）網で蝶やバッタを捕まえる（60）  （53）それぞれの生き物に適したかわいがり方、住みやすい環境を考えようとする（60）  （54）虫の鳴き声の面白さに興味を持つ（60）  （55）磁石や虫眼鏡に興味を持ち、くっつけたり拡大して遊ぶ（60）  （56）骨や筋肉、内臓などの体の仕組みに興味を持つ（60）  （57）信号を正しくわたる（60）  （58）なぞなぞ遊びをする（66）  （59）テレビなどで話題の出来事に興味を持ち、友達と話す（６０）  （60）お茶や生け花、和太鼓、琴などの伝統文化に興味を持つ（60）  （61）楽しい、悲しいなどの感情を声や身振りで表現する（60）  （62）話の筋に沿って人形やペープサートを動かす（60）  （63）合奏で、みんなのリズムに自分のリズムを合わせようとする（66）  （64）食事、言葉、服装、踊りなどの外国の文化に興味を持つ（66）  （65）星や月に興味を持つ（66）  （66）きれいな色と汚い色があることに気づく  （67）しばらく飼育したら、死ぬ前に逃がしてやろうという気持ちを持つ（66）  （68）動物の子育てや子どもに示す愛情に感動する（66）  （69）地図や地球儀に興味を持つ（66）  （70）オリンピックなどを通して、いろいろな国に興味を持つ（66）  （71）がならないで自然な声で歌う。  （72）北極や南極、熱帯などの特徴に興味を持つ（72）  （73）自分の住む地域の簡単な地図を見て、主な場所がわかる（72）  （74）こんな色や形のものが欲しいなど、目的をもって身近な素材を集めようとす  る（72）  （75）粘土をちぎっても合わせれば元の量になることが分かる（72）  （76）もともと同じ水の量は、別の容器に移し替えて見かけが変わっても同じということが分かる（72）  （77）赤ちゃんの誕生や卵の孵化に興味を持ち、命の誕生に感動する（72）  （7８）知っている曲に自由に歌詞を付けて歌う（72）  （79）劇遊びのストーリーを自分たちで考える（72）  （80）小学校に関する会話や、学校ごっこを楽しむ（72） | ③（環）  　・アオムシ　ツマグロヒョウモンの幼虫　魚　ウサギ　カメ　カブトムシ　クワガタ　カエル  　・図鑑や本  　・ムシメガネ　これまでの成長の写真  　（援）  　子どもの気づきを受け止め、認める  　色、形、動き、餌の食べかた、成長・変化などの気づきを促す。  ⑪（65）（環）  　笹、短冊、おりひめとひこぼしのお話、星座表  　（援）  　願いが十分に書けない子どもを援助する。  　おりひめとひこぼしはなぜ1年に1回しか会えないのか、一緒に考える。  　家庭に星座表を配布し、夜、子どもと星の観察をするように依頼する。    ㉑（環）  　・長い棒と短い棒、長い針金と短い針金、カスタネット、鈴、、カウベル、タンバリン、大きい茶碗と小さい茶碗、ドラム、和太鼓など  ㉗（環）  　花や葉っぱ、草、ビニール袋、水　プラカップやたまごパックなどの入れ物、すり鉢、すり棒  　・適切な植物～朝顔（青、紫）、オシロイバナ（黄色、紫）、ホウセンカ（ピンク、赤、紫）、つゆ草（青）、サルスベリ（ピンク、紫）  （援）  色を見せ、「この色ができるかな？」と問いかける。  作った色水を遊びに用いる（紙や布などを染める、氷づくり、暑中見舞い作りなど）。  ㉚㊼（環）  　数を意識する活動  　・おやつ配り、片付け、おたより帳のシールはり（日付の数字との一致）、  　　お団子づくり、さいころ遊び、時計遊び  ㊴保存概念が成立していないことを考慮し、変化に気付かせるための環境構成と援助。  　（環）同じ木々の、葉が緑の時の写真  　（援）写真の木の葉の色と、紅葉した木の葉の色を見比べる  ㊵（環）  　生命活動、成長・変化に気付くための教材。  　・巻き尺、棒（植物の高さに印をつける）  ・虫メガネ　ものさし  ・聴診器（木が水を吸い上げる音を聞く）  　・しおれたまたは枯れた植物　成長を記録した写真帳  （援）  ・成長や変化の気づきを認める。  ・どうして変化したのか一緒に考える。  ・水を吸い上げる音に一緒に感動する。    （53）（67）（環）  　・生き物図鑑（住んでいる環境やえさを調べる  　・水槽  　・霧吹き、温度計  　（援助）  　逃がすかどうかを話し合う。  　生き物が死んだときは、子どもと一緒にお墓を行くる。  なぜ死んだのか話し合う。  （71）（環）  　ゆったりしたテンポのわらべうた。  　子どもの音程の範囲で歌える歌  　ピアノの音は控えめにし、保育者の歌う声がよく聞こえる状況  （75）（76）  　（環）  認知的不均衡の状況（既存のシェマでは同化ができない状況）。  ・同じ容器に入れた同じ量の水を違う形の容器に移し、もう一度元の同じ容器に移す  ・違う形の容器に入れたとき、それぞれの水を取り出しはかりにかけてみる  ・子ども同士で話し合いをする |
| 言  葉  言  葉  言  葉  言  葉 | ①電話ごっこでやり取りを楽しむ（42）  ②「いつ」「どこで」という質問に答えることができる（42）  ③「それからどうしたの？」と話の続きを求める（42）  ④絵本を読みながら友達同士で話し合う（42）  ⑤見聞きしたことを先生や友達に話す（42）  ⑥友達の前で自分の考えを発表することができる（42）  ⑦絵本の絵を見て、どのような場面か説明することができる（42）  ⑧絵本やお話を聞いた後、主な登場者が言える（42）  ⑨何度か絵本やお話を聞くとあらすじがつかめるようになる（42）  ⑩近所の人にあいさつされたら、あいさつを返そうとする（42）  ⑪自分の名前など、身近な文字に興味を持つ（42）  ⑫遊びに加わるとき「入れて」という（48）  ⑬グループの話し合いで自分の意見を言うことができる（48）  ⑭動物や乗り物などの身近な文字に関心を持つ  ⑮自分の話が、相手に分かったかどうかがわかる（54）  ⑯友達が泣いたり、けがをした状況を先生に説明できる（54）  ⑰自分の名前を読む（54）  ⑱絵本やおはなしのあらすじをつかんで、人に話してあげることを喜ぶ（54）  ⑲次はこうなるというある程度の予想ができる（54）  ⑳今まで読んだことのない絵本に興味を持つ（54）  ㉑先生が話しているときは、私語やいたずらを我慢して聞く（54）  ㉒先生が話し始めると、していることを中止して聞く（54）  ㉓園にくるお客さんにあいさつする（54）+  ㉔わからない字を大人に聞く（60）  ㉕さいころの数がわかる（60）  ㉖数字を拾い読みする（60）  ㉗自分の名前をひらがなで書く（60）  ㉘自分の絵などに自分の名前を書く（60）  ㉙時計を見て、何時かわかる（60）  ㉚「た」のつく言葉、「か」のつく言葉が言える（60）  ㉛自分の住んでいるところが言える（60）  ㉜絵本の登場人物がなぜそんなことをするのか考えようとする（60）  ㉝登場人物の行動を批判したり、どうすればよかったか考える（60）  ㉞3～5枚の絵を並べ、お話を作ることを楽しむ（60）  ㉟先生から頼まれた伝言を伝えるお使いができる（60）  ㊱ひらがなの短い言葉を拾い読みする（66）  ㊲しりとり遊びをする（66）  ㊳友達とイメージを出し合って、お話作りを楽しむ（66）  ㊴友達が話しているときは、割り込まないで話し終わるまで聞こうとする（72）  ㊵ぶらんこで、回数を数えて順番を変わる（72）  ㊶絵本の文字を意味が通じるように読む（72）  ㊷絵本やお話を一度聞けば、全体のあらすじがつかめるようになる（72）  ㊸登場人物の気持ちを考えようとする（72）  ㊹今日が何曜日かわかる（72）  ㊺相手がわからないときは、言い方を変えて相手に伝えようとする（72）  ㊻相手の話をよく聞いてから自分の話をする  ㊼郵便屋さんごっこなどで、文字や記号を使って先生や友達に手紙を書く（72） | ④⑦⑧⑨㉑㉒㉓㉟㊱㊺㊻㊼  （環）  　年齢にあった絵本を用意する。  42か月～48か月  ・三びきのやぎのがらがらどん、ぐりとぐら、100かいだてのいえ、コップちゃん、がたん ごとん がたん ごとんなど  　48か月～60か月  ・はじめてのおつかい、14ひきのぴくにっく、どうぞのいす、ぐるんぱのようちえん、など  　60か月～72か月  　・エルマーのぼうけん、100まんかいいきたねこ、スイミー、ふたりのサン  ドウィッチ、こんとあき、どうするジョージ、など  　その時々のねらいに沿った絵本を選択する。  　　・いろいろな世界への知識と興味を広げる、人へのやさしさ・思いやりの大切さ、やり遂げることがんばることと勤勉さの大切さ、協力・助け合いの大切さ、していいこといけないこと、相手の気持ちを考える、など  （援）  子どもの感じたことや考えたことを受け止め、共感する。  話し合いのテーマを提供する。  ・なぜしたんだろう？  ・いいことかな？いけないことかな？どうしたらよかったかな？  ・どんな気持ちなのかな？  ・この先どうなるんだろう？  ⑪⑭㉔㉗㉘  （環）  ・保育室の物、場所の名前の文字表示  ・お誕生表の掲示  ・文字カード遊び（文字カードで物の名前を作る）  ・ひらがな塗り絵遊び  ・名札づくり遊び  ・かるたしりとり遊び  ・お手紙遊び  （援）  これはなんて書いてあるんだろうと問いかける。  読めたことを褒める、認める。  ㉚  （環）  　言葉遊びを紹介する。気に入った遊びを子どもが選択する。  　・〇で始まる言葉  　・しりとり  　・逆さ言葉ゲーム  　・かるたづくり  　・だれがどこでなにをした（ねこが　げんかんで　あくびした）  　　などのカードを組み合わせる  　（援）保育者も遊びに加わり、できない子どもの状況に応じて援助する。  ㉞（環）  　お話作りカード（市販のものもある）。  最初は1枚の絵（何をしてるかな？）。  　2～4枚の絵（子どもが自分で並べる）。  　（援助）  　子どもの作った話を受け入れ、認める。  　一緒に考えながら話を発展させる。 |
| 対人関係  対人関係  対人関係  対人関係 | ①友達と順番に物を使う（42）  ②決められた時間を守ろうとする(42）  ③自分が使いたいものを友達が使っていると「貸して」という（42）  ④友達に嫌なことをしたら「ごめんなさい」と言える（42）  ⑤自分のしたいことやほしいものの我慢ができる（42）  ⑥先生から頼まれたことはちゃんとやろうとする（48）  ⑦当番の仕事ができ、当番になることを期待する（48）  ⑧かくれんぼで隠れていることができる（48）  ⑨自分が作ったもの、友達が作ったものを見せ合う（48）  ⑩心配なことがあると先生に聞いてもらおうとする（48）  ⑪自分の持っているもの、使っているものを貸したり譲ったりする（48）  ⑫泣いている友達を心配し、「どうしたの？」「大丈夫？」と声をかける（48）  ⑬嫌なことをすると友達が嫌がることが分かる（48）  ⑭友達と、主張しあったり折り合いをつけることができる（54）  ⑮どちらがよくできるか友達と競争する（54）  ⑯お店で買い物ができる（54）  ⑰競技で、どちらが勝ったかわかる（54）  ⑱共同のものを、自分のものと同じように大切に扱おうとする（54）  ⑲友達ができないときは、励ましたり手助けする（54）  ⑳お休みしている友達のことを心配する（54）  ㉑かわいそうな話が分かり、涙ぐむ（54）  ㉒お年寄りとのかかわりを楽しむ（54）  ㉓じゃんけんやゲームの勝ち負けがわかる（60）  ㉔砂場で協力して山や池を作る（60）  ㉕お父さん、お母さんにありがとうの気持ちを持つ（60）  ㉖自分で出したごみは自分で片付けようとする（60）  ㉗話し合いで自分の意見を出す、人の意見を聞こうとする（60）  ㉘年をとるとどうなるかがわかり、自分のできることをやってあげようとする（66）  ㉙禁止されていることを友達がすると注意する（66）  ㉚鬼ごっこなどのルールがわかり、役割のある遊びを楽しむ（66）  ㉛人に言ってはいけないことは言いたくても我慢する。（66）  ㉜友達が描いたもの、造ったものの良いところを認める（66）  ㉝先生が掃除していると手伝おうとする（66）  ㉞小さい子や弱い子の世話をする（72）  ㉟自分の思いと相手の思いが違うことに気付く（66）  ㊱けんかの後で相手の言い分を聞こうとする（66）  ㊲小動物の飼育当番を責任をもってする（72）  ㊳じゃんけんで勝ち負けを決める（72）  ㊴友達がしてほしいことを、言われなくてもしてあげる（72）  ㊵木の実や落ち葉拾いに生き、全部持ち帰らずに残しておこうとする（72）  ㊶仲間に入れないでいる幼児を誘おうとする（72）  ㊷今先生は忙しそうだからあとにしようなど、相手の立場を考えて行動できる（72）  ㊸自分の行動がよかったかどうか考えてみようとする（72）  ㊹遊びに必要な決まりや約束を作り、お互いに守ろうとする（72）  ㊺親の仕事がわかり、頑張っていることに尊敬の気持ちを持つ（72）  ㊻作物を育てることの大変さがわかり、作った人にありがとうの気持ちを持つ（72） | ⑦（環）  　幼児ができる、みんなの役に立つ活動。  　・給食当番、布団当番、水やり・草引き当番、ゴミ集め当番、掃除当番、餌やり当番など  　・当番表、当番バッジ  　（援）  　当番の役割をがんばったこと、気を付けたこと、嬉しかったことを言わせる。  　当番のおかげでみんなが助かったことを伝える。    ⑳（環）  　お休みしている子どもがいるときの出席調べ。  　（援）  　誰がお休みしているか考える。  　お休みの状況を考える。  　自分が頭痛、腹痛などで休んだ時の気持ちを考える。  　自分たちが何がしてあげられるか考える。  ㉗（援）  　・誰にも興味ある、考えやすい、意見を持ちやすいテーマの設定（何を作る、どの絵本を読む、何をして遊ぶなど）  ・すぐに話し合いに入らずに、自分の意見を考える時間を作る。  　・自分の意見を持ったか確認する。意見の無い子には意見を持つ援助  をする。  　・意見の言えない子が意見を言う機会を作る。  ㊱（援）  それぞれの意見を平等に聞き入れる。  相手の気持ちに気付かせる。  解決策を一緒に考える、子ども同士で話し合いをさせる。  けがをしたときは、即座に園長、保護者に連絡する。 |
| 健康  ・生活習慣  健康  ・生活習慣 | ①食器を運ぶお手伝いができる（42）  ②大人の手をかけないでおしっこができる（42）  ③遊んだ後は自分から片付けようとする（42）  ④手が汚れたら、自分で気づいて洗う（42）  ⑤歯を磨き、口をすすぐ（48）  ⑥前のボタンを自分ではめる（48）  ⑦鼻をかむ（48）  ⑧顔を洗って拭く（48）  ⑨服が濡れたら自分で着替えようとする（48）  ⑩暑かったら、自分で衣服を脱いだり帽子をかぶったりする（48）  ⑪食べ物にはいろいろな栄養があることに興味を持つ（54）  ⑫収穫した野菜を園で調理して食べることを楽しむ（54）  ⑬食べ物を残すのはもったいないという気持ちを持つ（54）  ⑭大人の世話にならないで食事ができる（54）  ⑮水をこぼしたら雑巾で拭こうとする（54）  ⑯上着を一人で着る（60）  ⑰汗をかいたらタオルで拭く（60）  ⑱お腹や頭が痛いときは自分から先生に言う（60）  ⑲紙くずなどが落ちていたら自分で気づいて拾おうとする（60）  ⑳嫌いな食べ物でも食べることの大切さがわかり、頑張って食べようとする（66）  ㉑人の手を借りずに服の着脱ができる（72）  ㉒手ぬぐいやぞうきんを絞る（72） | ⑪⑫⑬⑭  （環）  食事をするテーブルにクロスをしく、花を飾るなど、楽しく食べるための環境づくり。  植物の生長・変化がわかりやすいもの、嫌いな子どもが多い野菜の栽培（キュウリ、トマト、ピーマン、ニンジンなど）。  調理される前の食材の観察。  農家訪問。  配膳の当番制。  クッキング体験。  子どもの食事量に応じた給食量（全部食べられたことを褒め、ともに喜ぶ）。  （援）正しい食事のマナーを見せる。  ・食べる前に手洗いをする  ・「いただきます」「ごちそうさま」挨拶をする  ・世話が必要な子どもがいるとき以外は食事中立ち歩かない  ・姿勢を正して食べる  ・口を閉じて音を立てない  ・口に物が入ったまま喋らない  ・お皿には手を添える  ・はしを正しく持つ、使う |